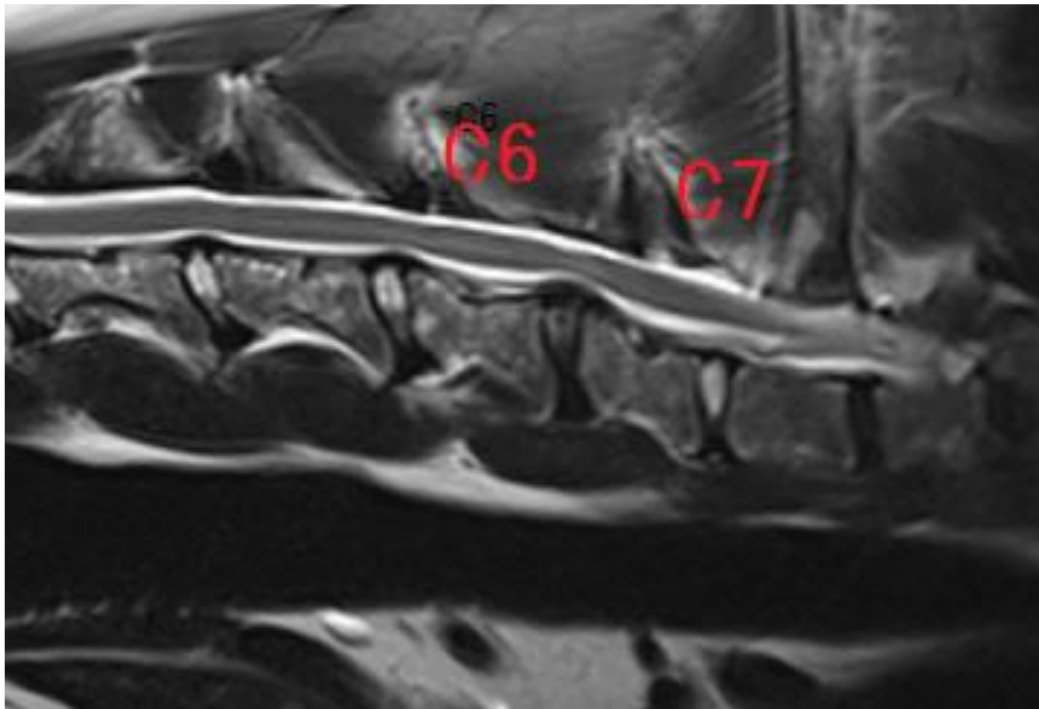


# ①ウォブラー症候群

- ▶ 柴犬、6歳、♂
- ▶ 症状：両後肢のふらつき 右後肢姿勢反応消失
- ▶ MRI検査：C6~C7の慢性椎間板ヘルニア・脊髄内高信号領域
- ▶ 診断：ウォブラー症候群



# ①ウォブラー症候群

## ▶ 治療：プレドニゾン・キセノン光線療法

- ふらつき・姿勢反応の改善が見られたが、完全回復には至らなかった
- 第74病日に再度ふらつき・姿勢反応悪化・起立障害の出現
- 同日プレドニゾン・キセノン光線療法 中止
- 第77・91・105病日に他家幹細胞療法（3回・静脈投与）を実施

## ▶ 結果：

84病日 ： 起立障害の回復（座位～起立時間短縮）

91病日 ： 姿勢反応の回復

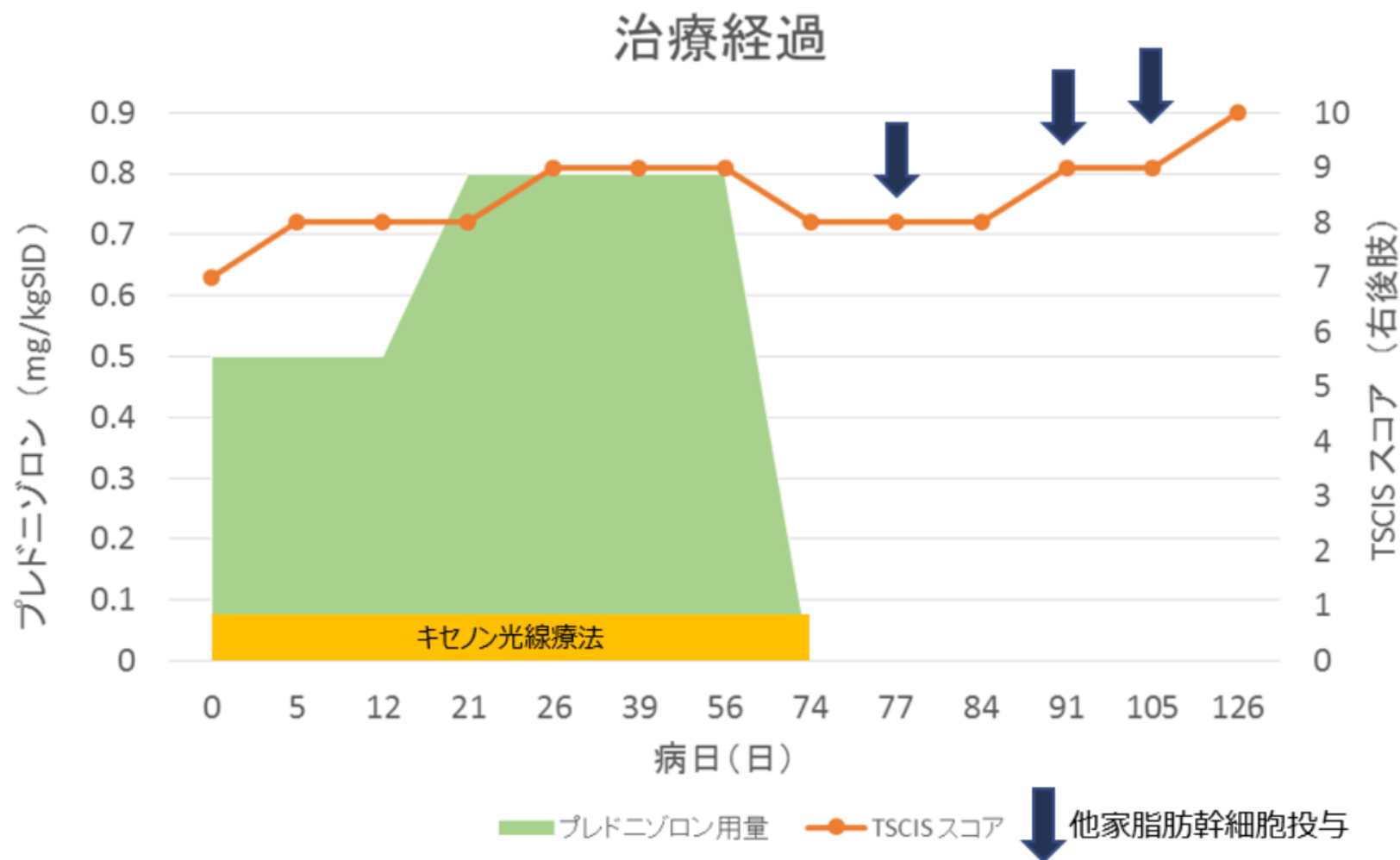
126病日 ： ふらつきの消失

300病日現在、無治療にて良好な状態を保っている

# ①ウォブラー症候群

## ▶ 結果 (TSCISスコア評価)

※投与細胞数 1回目： $7.0 \times 10^6$   
2回目： $8.0 \times 10^6$   
3回目： $5.0 \times 10^6$



## ②椎間板ヘルニア（グレード4）（犬）

- ▶ ミニチュアダックスフント、5歳10ヶ月、BW:8.5kg
- ▶ 症状：両後肢麻痺
- ▶ 経過
- ▶ 2017/8/3：両後肢麻痺に気づきかかりつけ医を受診
- ▶ CT検査にて椎間板ヘルニア(L2)グレード4
- ▶ 2017/8/4：片側椎弓切除術を実施
- ▶ 2017/8/24：術後症状の改善が芳しくない→当院、受診
- ▶ 手術の反応が乏しかったため他家ADSC投与を実施（IV投与、計3回）
- ▶ 平均投与細胞数： $3.15 \times 10^6$  cells（8/30、9/6、9/12）

## ②椎間板ヘルニア（グレード4）（犬）

| 日付              | CP |   | 踏み直り反射 |   | 飛び直り反射 |   | 深部痛覚 |   | 自力<br>排尿   |                         |
|-----------------|----|---|--------|---|--------|---|------|---|------------|-------------------------|
|                 | L  | R | L      | R | L      | R | L    | R |            |                         |
| 8/24            | 0  | 0 | 0      | 0 | 0      | 0 | +    | + | 不可         | 両後肢跛行                   |
| 8/30<br>他家ADSC① | 0  | 0 | 0      | 0 | 0      | 0 | +    | + | 不可         | 両後肢跛行                   |
| 9/6<br>他家ADSC②  | 0  | 0 | 0      | 1 | 0      | 1 | +    | + | 不可         | 自ら起立し3-4歩歩行             |
| 9/12<br>他家ADSC③ | 0  | 0 | 0      | 0 | 0      | 0 | +    | + | 反射的<br>に出る | 自ら起立姿勢が取れる<br>10m以上歩行可能 |
| 9/20            | 2  | 2 | 2      | 2 | 2      | 2 | +    | + | 反射的<br>に出る | <b>歩行可能</b><br>たまにひきずる  |
| 10/18           | 2  | 2 | 2      | 2 | 2      | 2 | +    | + | 反射的<br>に出る | <b>歩行可能</b><br>たまにひきずる  |

- ▶ 他家ADSC投与による有害反応は認められなかった
- ▶ 他家ADSC投与後、少しずつ肢を動かすようになり、1回目投与から3週間後には神経学的検査においても回復が認められた

### ③腰椎ヘルニア（犬）

▶ Patient

- ・M.ダックスフント
- ・13歳7ヶ月
- ・去勢♂

▶ Diagnosis

- ・IVDD Glade V
- ・脊髄圧迫重度@L1-L2椎間尾側

▶ Treatment

- ・L1-L2 Hemilaminectomy
- ・同種他家ADSC局所投与

#### History



**3/1**  
**発症**



**3/3**  
**OPE**  
**+**  
**ADSC**



**4/13**  
**歩行・自力排尿**

### ③腰椎ヘルニア（犬）

#### ▶ 獣医師コメント

- ▶ ・予後について：術後10日、右後肢から動きあり
- ▶ ・術後約40日に連絡あり：術後4週目にて自力排尿、歩行可能になったとのことで動画にて確認
- ▶ ・現在まで同種他家ADSC投与による副作用はみられていない

#### ▶ 獣医師コメント

- ・今回はグレード5から48時間後と推定される手術だったが、他家ADSC投与を積極的に行った⇒軟化症に移行せず、副作用なく歩行可能になったので良好と考えられる
- ・高カルシウム血症からの多飲多尿があったが手術後に消失した⇒ADSCとの関連は不明
- ・インフォームドで提案する際にADSCについて慎重に説明を実施した

## ④線維軟骨塞栓症（犬）

- ▶ チワワ、10歳、♂
- ▶ 経過
  - ・2歳の時に後肢麻痺を発症し、線維軟骨塞栓症と診断
  - ・自力排尿は可能であり、週2回、針と電気治療を実施
- ▶ ADSC投与
  - ・目的：後肢麻痺の改善
  - ・他家ADSCをIV投与
  - ・2017/4/12： $3.3 \times 10^6$  cells
  - ・2017/4/19： $2.6 \times 10^6$  cells
  - ・2017/4/26： $2.9 \times 10^6$  cells

## ④線維軟骨塞栓症（犬）

- ▶ 結果：幹細胞療法による臨床症状の改善は残念ながら、認められなかった
- ▶ 獣医師コメント
  - ・経過が長く、改善の可能性が低いことを理解されたうえでオーナー様の強い希望により幹細胞療法を実施
  - ・改善は認められなかったが、オーナー様は今回の治療を機に、再度リハビリを始め、前向きな姿勢で病気に向き合うようになったという点においては患者のQOL改善につながったと考えられる